

～感触あそび～ いろいろ紹介

教科・場面

図工

授業・実践のねらい

- ・さまざまな素材に触れ、感触の違いを楽しむ。
- ・握る・ちぎる・丸めるといった動作を通して、手先の感覚を高める。
- ・感触あそびを通して、想像力や思考力を養う。

対象の児童・生徒

〈小学部2年生〉

教材・教具

- | | |
|------------|---------------|
| ① 〈片栗粉あそび〉 | ③ 〈雨・色水あそび〉 |
| ・片栗粉 | ④ 〈クレイ粘土スライム〉 |
| ・水 | ・エンジェルクレイ粘土 |
| ・絵の具 | ・重曹 |
| ② 〈寒天あそび〉 | ⑤ 〈光あそび〉 |
| ・寒天粉 | 影あそび、光る石など |
| ・食紅 | |

パフェ作り

工夫したところ

- ・児童が自ら手を伸ばすのを待ったり、様子を見ながら、少しずつ感触に違いを出したりした。時間をたっぷりじっくり使った。
- ・様々な感触を経験できるよう継続して取り組んだ。



授業展開・教材の使い方・実践の内容

〈片栗粉あそび〉 2回目

①粉に触れる → ②少しずつ水 → ③触れると溶ける固さ → ④ギシギシと固くなる固さ → 手やスプーンでカップに入れる

〈寒天あそび〉 2回目

①容器にはいったまま（児童がどうするか様子を見る） → ②触れる、握る、つぶす等 → ③スプーンですくって容器に入れる → ④型をとる → ⑤飾りつけ

→パフェのできあがり！！

〈雨あそび〉

- ・色水にボンドを加え、マヨネーズ容器で透明ビニールに模様をつけた。乾くと水滴が残る。



※その他、写真や現物で紹介予定。

授業・実践を通じた児童生徒の変容

片栗粉は、形状の変化を楽しむ児童が多かった。感触が苦手な児童もいるが、片栗粉は初めから積極的に取り組んでいた。感触が変わるたびに自ら手を伸ばしてその違いを楽しんでいた。手に吸い付いてくる感覚があり、その感覚に合わせて自ら手を動かす児童もいた。寒天は、恐る恐る手を伸ばす児童が多かった。ぷるぷるの感覚が苦手な児童もいた。触れるたびに少しずつ慣れ受け入れていた。